科目番号	51009	分類		履修者	高度実践看護コース	学年	1
科目名	治療のためのＮＰ実践演習 （Practice of Treatments for critically ill patients）					配当セメスター	後期
担当者	○溝中桂一　他28名	区分	必修	単位	6	時間数	カリキュラム　180 特定行為研修（実時間） 研修対応時間　186.5

授業の概要および目標	学位授与の方針と関連
【概　要】 クリティカル領域における治療法の科学的根拠をふまえた適応や治療法の特徴を理解する。治療継続にかかわる生体への作用・副作用等を理解し、治療計画の変更や終了などを判断するための知識を修得する。 また対応する機会が多い事例への特徴的な治療方法についてエビデンスと患者の意思決定に基づいた治療方法の選択と治療していくプロセスを実践的に学ぶ。治療方法を確実に行うための技術を修得する。また、治療の際の自己の役割・限界を明確にする。 【目　標】 1．クリティカル領域特有の治療に対する理解を深めるができる。 2．クリティカル領域において遭遇する事例について治療の選択ができる。 3．クリティカル領域の治療に必要な技術を実践できる。 4．治療の際の自己の役割・限界を明確にできる。	○ 1 クリティカル領域における患者の状況を総合的に判断する能力 ○ 2 クリティカル領域における患者に必要な治療を実践できる能力 ○ 3 患者に安心・安全な医療をタイムリーかつ効果的に提供するために医師等との協働ができ、ネットワークを推進できる能力 ○ 4 専門職としての倫理的意思決定能力 ○ 5 高度看護実践者として、教育的経営的な視点をもつトップマネジメント能力 6 臨床実践に潜む暗黙知を形式知へと創出する研究開発能力 ○ 7 クリティカル領域における患者の危機的状況を支援する能力

授業計画

回	内容	担当教員
第1回 第2回	Ⅰ．救急・重症患者の管理 1．循環動態のモニタリングと薬物（カテコラミン・降圧剤） ・輸液療法の目的と種類 ・病態に応じた輸液療法の適応と禁忌・ ・輸液時に必要な検査 ・輸液療法の計画	溝中 他28名
第3回	・カテコラミン製剤の種類と臨床薬理 ・各種カテコラミン製剤の適応と使用方法 ・各種カテコラミン製剤の副作用	
第4回	・降圧剤の種類と臨床薬理 ・各種降圧剤の適応と使用方法 ・各種降圧剤の副作用	
第5回 第6回 第7回 第8回	2．初期輸液と維持輸液／栄養管理の技術（PICCとIVHポート） ・末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入の適応と禁忌 ・末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入に伴うリスク（有害事象とその対策等） ・末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入の方法と手技（OSCE） ・末梢留置型中心静脈注射用カテーテルに関する局所解剖 ・末梢留置型中心静脈注射用カテーテルを要する主要疾患の病態生理 ・末梢留置型中心静脈注射用カテーテルを要する主要疾患のフィジカルアセスメント ・末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの目的 ・末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの適応と禁忌 ・末梢留置型中心静脈注射用カテーテルに伴うリスク（有害事象とその対策等）	
第9回 第10回 第11回	・持続点滴によるナトリウム、カリウム又はクロールの投与の臨床薬理 ・持続点滴によるナトリウム、カリウム又はクロールの投与の適応と使用方法 ・持続点滴によるナトリウム、カリウム又はクロールの投与の副作用 ・病態に応じた持続点滴によるナトリウム、カリウム又はクロールの投与の調整の判断基準（ペーパーシミュレーションを含む） ・持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整のリスク（有害事象とその対策等） ・糖質輸液、電解質輸液の種類と臨床薬理 ・各種糖質輸液、電解質輸液の適応と使用方法 ・各種糖質輸液、電解質輸液の副作用 ・利尿剤の種類と臨床薬理 ・各種利尿剤の適応と使用方法 ・各種利尿剤の副作用	
第12回	3．不整脈への対応 ・一時的ペースメーカの目的 ・一時的ペースメーカの適応と禁忌 ・一時的ペースメーカに伴うリスク（有害事象とその対策等） ・ペーシング機器の種類とメカニズム ・ペースメーカのモードの選択と適応 ・一時的ペースメーカの操作及び管理方法 ・患者・家族への指導及び教育	
第13回	4．呼吸状態の管理 ・経口又は経鼻気管挿管の目的	
第14回 第15回 第16回	5．感染予防と対応（薬物療法含む） ・感染症の病態生理	
第17回	6．意識レベルの管理	
第18回	7．熱傷の管理	
第19回	Ⅱ．集中治療の管理 1．ショック患者の管理 ・動脈血液ガス分析が必要となる主要疾患とその病態	
第20回	2．ＩＣＵにおける血糖管理と人工栄養療法 ・インスリン療法の目的 ・糖尿病とインスリン療法に関する検査（インスリン療法の導入基準を含む） ・インスリン製剤の種類と臨床薬理 ・各種インスリン製剤の適応と使用方法 ・各種インスリン製剤の副作用	
第21回 第22回	3．各種カテーテル・ドレナージチューブ管理、低圧持続吸引装置 ・低圧胸腔内持続吸引の適応と禁忌 ・低圧胸腔内持続吸引に伴うリスク（有害事象とその対策等） ・低圧胸腔内持続吸引器のメカニズムと構造 ・低圧胸腔内持続吸引器の吸引圧の設定及びその変更方法	
第23回	<主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習> Ⅲ．がん化学療法とペインコントロール 1．がん化学療法 ・抗癌剤の種類と臨床薬理 ・各種抗癌剤の適応と使用方法 ・各種抗癌剤の副作用	
第24回 第25回 第26回 第27回 第28回 第29回	2．がん疼痛の薬物療法 3．痛みの緩和と鎮静療法（硬膜外からの鎮痛薬投与を含む） ・ステロイド剤の種類と臨床薬理 ・ステロイド剤の副作用	
第30回	4．抗癌剤投与に伴う障害とその対処法（薬剤漏出等） ・抗癌剤その他の薬剤が血管外に漏出したときの病態生理 ・抗癌剤その他の薬剤が血管外に漏出したときの症候と診断 （ペーパーシミュレーションを含む）	
第31回 第32回 第33回	Ⅳ．治療に必要な技術 1．呼吸管理の技術 1）病態に応じた人工呼吸器の使用：換気障害 病態に応じた人工呼吸器の使用：低酸素 2）病態に応じた人工呼吸器の設定変更 ・人工呼吸療法の目的 ・人工呼吸療法の適応と禁忌 ・人工呼吸療法に関する局所解剖 ・人工呼吸療法を要する主要疾患の病態生理 ・人工呼吸療法を要する主要疾患のフィジカルアセスメント ・人工呼吸器管理の適応と禁忌 ・人工呼吸器のメカニズム・種類・構造	
第34回 第35回	3）気管挿管・抜管の時期の判断とその方法 ・侵襲的陽圧換気の設定の目的 ・侵襲的陽圧換気の設定条件の変更の適応と禁忌 ・侵襲的陽圧換気の設定条件の変更に伴うリスク（有害事象とその対策等） ・侵襲的陽圧換気の選択と適応 ・侵襲的陽圧換気の設定条件の変更方法	
第36回 第37回	4）人工呼吸器装着中の患者の離脱管理 ・非侵襲的陽圧換気の目的 ・非侵襲的陽圧換気の適応と禁忌 ・非侵襲的陽圧換気の設定条件の変更に伴うリスク（有害事象とその対策等） ・非侵襲的陽圧換気の設定条件の選択 ・非侵襲的陽圧換気の設定条件の変更方法	
第38回 第39回	5）人工呼吸器使用上における基礎的知識（NPPV含む） 6）人工呼吸器装着中の患者の鎮静 ・人工呼吸器管理がなされている者に対する鎮静の目的 ・人工呼吸器管理がなされている者に対する鎮静の適応と禁忌 ・人工呼吸器管理がなされている者に対する鎮静に伴うリスク（有害事象とその対策等） ・人工呼吸器管理がなされている者に対する鎮静薬の選択と投与量 ・人工呼吸器管理がなされている者に対する鎮静の方法	
第40回 第41回 第42回	・人工呼吸器からの離脱の目的 ・人工呼吸器からの離脱の適応と禁忌 ・人工呼吸器からの離脱に伴うリスク（有害事象とその対策等） ・人工呼吸器からの離脱の方法	
第43回 第44回	7）シミュレータを用いた気管挿管の実際 ・気管カニューレの適応と禁忌 ・気管カニューレの構造と選択 ・気管カニューレの交換の手技 ・気管カニューレの交換の困難例の種類とその対応	
第45回 第46回	8）気管カニューラの交換 ・経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の手技 ・気管切開に伴うリスク（有害事象とその対策等）	
第47回	9）気管チューブの位置調整 ・経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の目的 ・経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の適応と禁忌 ・経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整に伴うリスク（有害事象とその対策等） ・経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の手技（OSCE）	
第48回 第49回	2．外傷時の治療 1）縫合 ・創部哆開創のアセスメントと治療	
第50回 第51回	2）縫合の実際	
第52回	3）埋没縫合と皮膚の形成	
第53回	3．ショックの事例における治療技術 1）出血性ショックに対する圧迫止血 ・創部ドレナージに関する局所解剖 ・創部ドレナージを要する主要疾患の病態生理 ・創部ドレナージの目的 ・創部ドレナージの適応と禁忌 ・創部ドレナージに伴うリスク（有害事象とその対策等）	
第54回 第55回	4．胸腔穿刺・腹腔穿刺の適応と技術 1）胸腔穿刺（緊張性気胸等も含む） ・胸腔ドレーンの抜去の適応と禁忌 ・胸腔ドレーンの抜去に伴うリスク（有害事象とその対策等） ・胸腔ドレーンの抜去の方法と手技	
第56回 第57回	2）腹腔穿刺 ・腹腔ドレナージの抜去の適応と禁忌 ・腹腔ドレナージの抜去に伴うリスク（有害事象とその対策等） ・腹腔ドレーンの抜去の方法と手技	
第58回 第59回 第60回	5．栄養管理の技術 1）経腸栄養 2）胃ろう・腸ろうカテーテルとボタン交換（OSCE） ・胃ろう、腸ろう及び膀胱ろうに関する局所解剖 ・胃ろう及び腸ろうの目的 ・胃ろう及び腸ろうの適応と禁忌 ・胃ろう及び腸ろうに伴うリスク（有害事象とその対策等）	
第61回 第62回	3）CV穿刺法と合併症 ・中心静脈カテーテルに関する局所解剖 ・中心静脈カテーテルを要する主要疾患の病態生理 ・中心静脈カテーテルを要する主要疾患のフィジカルアセスメント ・中心静脈カテーテルの抜去の適応と禁忌 ・中心静脈カテーテルの抜去に伴うリスク（有害事象とその対策等） ・中心静脈カテーテルの目的 ・中心静脈カテーテルの適応と禁忌 ・中心静脈カテーテルに伴うリスク（有害事象とその対策等） ・中心静脈カテーテルの抜去の方法と手技	
第63回 第64回	4）高カロリー輸液 ・高カロリー輸液の種類と臨床薬理 ・高カロリー輸液の適応と使用方法 ・高カロリー輸液の副作用と評価 ・高カロリー輸液の判断基準（ペーパーシミュレー ションを含む） ・低栄養状態の判断と高カロリー輸液のリスク（有害事象とその対策等） ・高カロリー輸液に関する栄養学	
第65回	演習：第61～64回に対して	
第66回 第67回 第68回 第69回 第70回 第71回 第72回 第73回	1）褥瘡の治療 ・褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の目的 ・褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の適応と禁忌 ・全身・局所のフィジカルアセスメント ・慢性創傷の種類と病態 ・褥瘡の分類、アセスメント・評価 ・治療のアセスメントとモニタリング（創傷治癒過程、TIME理論等） ・リスクアセスメント　・褥瘡及び創傷治癒と栄養管理 ・褥瘡及び創傷治癒と体圧分散 ・褥瘡及び創傷治癒と排泄管理 ・DESIGN - R に基づいた治療指針・ ・褥瘡及び創傷の診療のアルゴリズム・ ・感染のアセスメント ・褥瘡の治癒のステージ別局所療法 ・下肢創傷のアセスメント ・下肢創傷の病態別治療 ・褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴うリスク（有害事象とその対策等） ・DESING-R に準拠した壊 死組織の除去の判断 ・全身状態の評価と除去の適性判断（タンパク量、感染リスク等） ・壊死組織と健常組織の境界判断 ・物理的療法の原理 ・創傷に対する陰圧閉鎖療法の方法 ・創傷に対する陰圧閉鎖療法に伴う出血の止血方法	
第74回	2）褥瘡をもつ患者のデブリードメント ・皮膚、皮下組織（骨を含む）に関する局所解剖 ・主要な基礎疾患の管理	
第75回 第76回	・褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の方法(OSCE) ・褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴う出血の止血方法（OSCE）	
第77回 第78回 第79回	3）陰圧閉鎖療法 ・創傷に対する陰圧閉鎖療法の種類と目的 ・創傷に対する陰圧閉鎖療法の適応と禁忌 ・創傷に対する陰圧閉鎖療法に伴うリスク（有害事象とその対策等）	
	<主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習> Ⅴ．クリティカル領域で遭遇する疾病に対する薬物治療 （事例を用いて学生が実際に展開する）	
第80回	1）発熱の事例における薬物療法の実際	
第81回	2）腹痛の事例における薬物療法の実際	
第82回	3）脳卒中事例における薬物療法の実際	
第83回	4）呼吸困難の事例における薬物療法の実際	
第84回	5）血糖値・電解質異常の事例における薬物療法の実際（ｲﾝｽﾘﾝ他）	
第85回	6）胸痛の事例における薬物療法の実際	
第86回	7）ショック事例における薬物療法の実際	
第87回 第88回	Ⅵ．四肢・頭部外傷の評価と治療 1）四肢 ・主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論（運動器系）	
第89回 第90回	2）頭部 ・創部ドレーンの抜去の適応と禁忌 ・創部ドレーンの抜去に伴うリスク（有害事象とその対策等） ・創部ドレーンの抜去の方法と手技	
第91回 第92回	Ⅶ．循環器に関するME機器の管理 1）ペースメーカーとその管理 ・一時的ペースメーカリードの抜去の目的 ・一時的ペースメーカリードの抜去の適応と禁忌 ・一時的ペースメーカリードの抜去に伴うリスク（有害事象とその対策等） ・一時的ペースメーカリードの抜去の方法	
第93回 第94回	2）PCPSとその管理 ・経皮的心肺補助装置の目的 ・経皮的心肺補助装置の適応と禁忌 ・経皮的心肺補助装置とそのリスク（有害事象とその対策等） ・経皮的心肺補助装置のメカニズム ・経皮的心 肺補助装置の操作及び管理の方法	
第95回 第96回	3）IABPとその管理 ・大動脈内バルーンパンピングの目的 ・大動脈内バルーンパンピングの適応と禁忌 ・大動脈内バルーンパンピングに伴うリスク（有害事象とその対策等） ・大動脈内バルーンパンピングの操作及び管理の方法 ・大動脈内バルーンパンピングからの離脱のための補助の頻度の調整の適応と禁忌 ・大動脈内バルーンパンピングからの離脱のための補助の頻度の調整に伴うリスク（有害事象とその対策等） ・大動脈内バルーンパンピングからの離脱の操作及び管理の方法	
第97回 第98回 第99回	4）血液透析濾過器とその管理 ・急性血液浄化療法に関する局所解剖 ・急性血液浄化療法を要する主要疾患の病態生理 ・急性血液浄化療法を要する主要疾患のフィジカルアセスメント	
第100回 第101回 第102回	Ⅷ．排泄障害 1）膀胱ろうカテーテルの管理と交換（OSCE） ・膀胱ろうに関する局所解剖 ・膀胱ろうの目的 ・膀胱ろうの適応と禁忌 ・膀胱ろうに伴うリスク（有害事象とその対策等）	

事前･事後学習	事前学習：当日の課題に関し参考図書の内容を予習し理解して授業に参加する。 事後学習：授業の内容を配布資料と参考図書等で復習する。 単位と時間数に応じた学習時間（学生便覧参照）を参考に取り組むこと。
評価の方法	筆記試験と実技試験（OSCEを含む）で評価する。 フィードバックは適宜行う。
参考図書･資料等	適宜紹介する。 ◎は授業の必携図書ですので、購入していただきます。
備考	オフィスアワーについては、学生便覧を参照し、教員と日程調整をする。